

チー九

印刷を支え加工を活かす

営業部 課長

やまうち やすひろ
山内 靖弘

2020年10月1日に中途入社した山内靖弘さんは、現在、営業部の課長としてメンバーのサポートにあたっています。同業他社から当社へ転職を果たした山内さんに、製本業界での印象深いエピソードや、製本に対する思いについて伺いました。



——入社の経緯を聞かせてください。

前職も製本に携わる会社で、30年間ほど勤務していました。しかし、業績の悪化により工場が閉鎖する事態になってしまいました。その通知を受けたのが2020年4月で、ちょうど新型コロナウイルス感染症が発生し、私たちの行動にも制限がかけられていた時期でした。工場の閉鎖が5か月後に迫る中、再就職活動をするようにもなかなか思うようには進みません。企業からの就職を斡旋する場所も用意されていましたが、当時すでに50歳を迎えており、子どももまだ学生だったため漠然とした不安や焦りがありました。そのような中でたまたま会社を訪問していた現在の上司である藤井本部長に声をかけていただきました。旭紙工株式会社はもともと前職のときから、立ち会いや業務確認の際に訪問する機会があり、親しみを感じていました。対話を重ねて互いの意思を確認し、当社への入社を決意しました。

——入社後、印象深い出来事は何ですか。

入社1年目のとき、本を梱包するためのケースのサイズにかなり余裕を持たせすぎて発注したことがありました。自分の担当先ではなく、別のメンバーから頼まれて発注したものであったのですが、当該のお客様はびったりのサイズを望まれていたため作り直すことになってしまったのです。その仕事は協力会社様も関わっており、多くの方に迷惑をかけてしまいました。新しいケースが届き、梱包作業まで無事に終わったときは、安堵感よりも申し訳なさのほうが強くなったのを覚えています。



——製本業界に入ってから、最も心に残っている経験を教えてください。

現物が完成してからきちんと採寸し、さらに第三者のダブルチェックも経た上で発注するのが最も確実な方法であると学びました。当時フォローしてくださった皆さんには本当に感謝しています。

前職で社内の現場を経験したのち、生産管理を担当する立場となった頃のことです。自社内での工程管理と業務内製化を進めるのが私の役目でしたが、営業と現場の板挟みになり、大きなジレンマを抱えていました。すっかり自信を失い、行き詰まっていたときに、たまたま見かけたある会社のホームページに興味を持ったのです。そこは手作業で上製本を作っている小さな会社で、大量生産はできないが、誇りやこだわりを持って一冊一冊仕上げていくという部分に強く共感を覚えました。すぐにアポイントメントを

——最後に、今後の目標を聞かせてください。

世の中はデジタル化が進んでいますが、製本においては、アナログな部分にこそ奥深さがあると思います。使い捨てが流行する世の中ですが、本は作り方によっては100

年後も残り続けます。我々は1冊の本にそういった思い入れを持ちながら活動しています。

そのような中で、現在私は営業職のメンバーをサポートする立場として、トラブルや確認事項などがある際、営業と工場をつなぐパイプのような役割を担っています。すべてのメンバーが活動しやすいようにサポートするのが私の使命だと自覚し、これからも誠心誠意自分の仕事に取り組んでいくのが目標です。

製本の仕事に対する並々ならぬ情熱を持った山内さん。その思いはこの先も変わることがなく、前を向いて精力的に活動を続けるでしょう。

企業情報

- ◆創立年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年商：17.6億円
- ◆従業員数：200人

※2023年12月実績

ビジョンとパッション

第3弾

今回お話を伺ったのは井上常務。当社の強みと、その根幹を支える2つのポイントは注目です。
お客様のために、会社の仲間たちのために、日々真摯な姿勢で業務に取り組む井上常務が大切にしている考え方と合わせて、ご覧ください。

旭紙工の
ここがすごい!

強み

基本的に「できない」というものはほぼない!

多種多様な機械を有しており、対応が難しいものは3種類ほど。対応範囲の広さは同業他社を凌駕すると自負しています。この強みを根底から支えるのは2つのポイント。ズバリ「営業力」と「技術力」です。

お客様へ+α以上の提案を行う営業力

「この仕様でお願いできますか?」「はい、可能です」ととどまらないのが当社の営業担当。お客様からのご依頼に「ならば、こういったものもできますよ」「この設備でこれにも対応できますよ」といったいくつものプラスアルファを重ねて、より良いご提案を行っています。また、営業担当者は皆、協力会社様や各地の印刷会社様との横のつながりを大切にしているため、加工だけではなく印刷から発送までといった依頼にも臨機応変に対応可能です。

充実の設備を駆使するベテランが揃う技術力

各部門に配置された課長・責任者クラスを中心に、現場で設備を使い分けながら大ロットから小ロットまで幅広くお客様のニーズに対応。その技術力も素晴らしいと思います。ただし、現状、全メンバーがすべての機器を扱えるオペレーターというわけではありません。そこで、人材育成を課題と認識し、管理本部が教育スケジュールやカリキュラムを作成。全社一丸となって前向きに取り組んでいる最中です。

今後長期的に成し遂げたいこと

全員が達成感を味わえる仕事、誇れる会社を目指す

以前、パートの方が話してくれました。「駅構内でのこと。私が作業に携わった電車の案内マップをご夫婦が『次、どこ行く?』と嬉しそうに話しながら見ていました。その姿を見て、誰かが笑顔になるお手伝いをしているのだと、自分の仕事がものすごく誇らしく思えました」と。その話を聞いて純粋に嬉しく思うとともに「そういったメンバーが増えると、仕事一つひとつに対する愛情や大切さがもっと波及していくな」と感じました。そうすれば、お客様からより一層のご支持を得られるはず。ですから、当社の理念「印刷を支え加工を活かす」を大切に、皆さんが仕事に対する達成感や喜びを味わえる仕事、誇れる会社を目指します。そして、代表の掲げる目標「早く帰れて、給料の良い会社、かつ情のある会社」を成し遂げ、皆で幸せになっていきたいと思います。



常務
いのうえ はじめ
井上 肇さん

井上さんって
どんな人?

自身の信念

誠実であれ、正直であれ

仕事に限らずすべてのことに対し、正直に、嘘偽りなく、後ろめたさのない言動をしなければいけないと戒めています。その根源にあるのは、幼いときに同居していた母方の祖父母の言葉。「正直でありなさい」「悪いことをしたらごめんなさい、だよ」「感謝を忘れたらあかんよ」といった教えが胸に刻まれています。また、何かの書籍で目にした『刻石流水（かけた情は水に流せ、受けた恩は石に刻め）』という一節も心に深く残っています。これからも感謝を忘れず、言葉と行動が伴う誠実な人間でありたいと思っています。



仕事をする上で大切にしている考え方

3つのポイントを大切にしています。

こだわりを持つ

ものづくりにおいて重要だと考えます。こだわり過ぎて仕事が進まなければ仕事として成り立たないため、こだわりの加減は難しいのですが、「良いものをつくろう」というこだわりは欠かしません。

何事も諦めない

仕事をしていると、さまざまな場面で諦めたい気持ちが生まれることがあります。ものづくりでこだわっているときもそうです。しかし、けっして諦めない心を大切にしています。

感謝を忘れない

私の根本にある、一番大切にしている考えです。ご縁があって入社して33年。会社に対しても、お客様や協力会社様の皆さんに対しても、ともに働くすべての仲間に対しても、感謝の念に堪えません。これからも感謝の気持ちを忘れず、より良い仕事、より良いものづくりに邁進する所存です。

